

第 20 回大阪大学野田村サテライトセミナー 「野田村で続けるシャレットワークショップの展望」

2014 年 10 月 11 日、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムのもと開設された「大阪大学野田村サテライト」にて、「第 20 回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。今回は、野田村で続けるシャレットワークショップの展望と題してセミナーを行いました。講師には、八戸工業高等専門学校総合科学科教授の河村信治先生をお迎えし、およそ 1 時間にわたって野田村で開催してきたシャレットワークショップの概要と展望についてお話していただき、そのあとに 30 分ほど会場や中継先の大阪大学吹田キャンパスを巻き込んで、ディスカッションを行いました。

今回も、遠隔教育システムを使用して、大阪大学吹田キャンパスをつなぎ、同時中継でセミナーを行いました。

まず、河村先生の主な研究である都市計画についての説明がありました。都市計画において、企業や行政が主導で住民の意見が軽んじられているという反省から、「まちづくり」という言葉が生まれ、最近では、「まち育て」という考え方をもとに住民が主体的に都市計画に参加できるような配慮がなされているとのことでした。具体例として河村先生が挙げられていた八戸での実践は、住民が街中にゴーヤを植えて緑化を図るものや、使われていない自転車に青色 LED を巻き付けイルミネーションとして活用するものなど、従来の都市計画のイメージにとらわれない「まち育て」でした。



発表される河村先生

続いて、野田村で年に一回行われているシャレットワークショップ発足の経緯と、いままでのシャレットワークショップの経過、また、今後の展望を話してくださいました。そもそも、シャレットワークショップとは、専門家や学生が集まって、短期集中的に行うワークショップのことで、そこに地域の人が入ることはあまりないそうです。最初に河村先生が、学生たちの勉強のために野田村でシャレットワークショップを行わないかと打診を受けた時に、「いま、野田村でシャレットワークショップを行って、それが本当に野田村のためになるのだろうか」と非常に迷われたそうですが、長く続けていくことで意味ができるのではないかと思います、野田村でのシャレットワークショップを決めたそうです。第一回第二回を通して、野田村の方との交流の機会が少なく、学生も野田村の方も不完全燃焼感があったようでした。そこで、第三回と今年行われた第四回は、民泊や農業体験を取り入れるなどして、交流を中心に据えたところ、今までの枠にとらわれない面白い提案ができるようになったそうです。これからの展望としては、シャレットワークショップというやり方ではなく、「寄り添いワークショップ」という形で、野田村の方々との関わりのきっかけづくりになればいいのではないかと思いますという展望を語って下さりました。



大阪大学吹田キャンパスとの中継の様子

発表終了後、大阪大学野田村サテライト会場や大阪大学吹田キャンパスを巻き込んだディスカッションが行われました。主な議題の一つとして、「ワークショップに参加していない人たちの意見は、どのようにして拾うのか」がありました。それに対して、河村先生は、ワークショップはあくまでも一つの手段にしか過ぎないので、ワークショップすべてに賛成とは言えない。ワークショップ云々よりも、顔の見える関係づくりが大切で、ワークショップがそのきっかけになればいいとおっしゃっていました。また、野田村という濃い人間関係だからこそ、かえって自由に建設的な議論になりにくいという指摘もありました。

第 20 回大阪大学野田村サテライトセミナーは、河村先生の非常に興味深い報告と会場の活発な議論によって、非常に盛り上がりました。さらに、終了後の懇親会では、普段から感じていることをざっくばらんに意見交換ができ、非常に有意義な懇親会となりました。次回セミナーは 11 月 11 日に大阪大学から未来共生イノベーター博士課程プログラムの学生を招いて今年 8 月に行なったコミュニティ・ラーニングの報告をしていただく予定です。